

モニタリングサイト 1000 沿岸域調査

毎年調査結果票 2009 (平成 21) 年度

(1)サイト名	志津川 (宮城県本吉郡南三陸町)	略号	ABSDG
(2)海域区分	①北部太平洋沿岸		
(3)緯度・経度 (WGS84)	38.6511 N, 141.4917 E (起点)		
(4)調査年月日	2009年6月13日		
(5)調査者氏名	サイト代表者: 太齋彰浩 (南三陸町自然活用センター) 坂西芳彦 ((独)水研セ・北海道区)、田中次郎 (東京海洋大)、倉島 彰 (三重大)		
(6)環境の概要	離岸距離と水深で底質が異なる。岸寄りでは岩盤だが、離岸距離 50～80 m にかけては小転石、転石が混じる他、転石のみとなる部分もある。離岸距離 90 m 以遠は巨礫または巨礫と岩盤となる。三陸の典型的なりアス式海岸の中にあり、志津川湾内に浮かぶ島 (椿島) の外洋に面した岩礁海岸である。調査対象群落は湾内に位置するが、沖側の湾口部に面していることから海水の流動が活発で、透明度は高い。		
(7)植生 (藻場) の概要・特徴	主要な植物として、アラメ、エゾノネジモク、アサミドリシオグサ、アミジグサ、マクサ、ユカリ、タンバノリ、ヌメハノリ、ハリガネ、マルバツノマタ、ミツデソゾ、ハイウスバノリが生育する。また、底生動物として、キタムラサキウニが確認された。調査海域には岸寄りではエゾノネジモク、フシスジモクが混生するが、基本的にアラメが主体となる群落である。下草としてはアサミドリシオグサ、フクロノリ、アミジグサ、マクサ、ユカリ等が見られる。調査海域周辺ではマコンブ群落が見られる場所もあり、寒海性コンブ目と暖海性コンブ目が共存する海域の代表的な藻場の一つと言える。		
(8)植生 (藻場) の変化	昨年に比べ調査時期が 1 ヶ月早かったが、そのことを考慮に入れても、今年度のアラメ幼胞子体の出現頻度は (昨年に比べ) 明らかに低かった。		
(9)その他特記 事項	本事業で定めた調査法に準じた。調査海域は岸よりではエゾノネジモク、フシスジモクが混生するが、基本的にアラメが主体となる群落である。		

* (独) 水研セ = 独立行政法人水産総合研究センターの略

調査地の地図

	<p>位置図（広域地図） 円内に調査地がある。 スケールは7 km を示す。</p>
	<p>位置図（詳細地図） 実線は調査ラインを示す。 スケールは1 km を示す。</p>

調査地の景観、生物写真など



調査地周辺風景
海側をのぞむ



調査地周辺風景
陸側をのぞむ



水中ボンドで海底に固定した金具に
コーナープレートを装着



被度を記録中



エゾノネジモクの多い方形枠



アラメの多い方形枠
写真撮影：田中次郎・坂西芳彦